

モ～暑を乗り切れ！

～暑熱ストレスの影響と対策～

令和7年7月発行

今年度も猛暑が予想されます。暑熱対策にしっかりと取り組み、牛にとって快適な環境づくりを心がけましょう。



1) 暑熱ストレスについて

- ・牛の快適温度域は10～15℃と言われており、冷涼な気候を好みます。
- ・温度が30℃以上に上昇すると、暑さで体温調節が難しくなり、ストレスを感じます。

2) 肉用牛に及ぼす影響について

- ・牛の体温調節は主に呼吸や発汗(鼻先)によって熱が放散されます。しかしながら、高温の飼養環境下では放散効率が下がり、暑熱ストレスが高まります。この結果、採食量や受胎率の低下などにより生産性へ様々な悪影響を及ぼします。
- ・繁殖牛では卵子の成熟に2～3カ月の期間を要し、この期間は暑熱の影響を特に受けやすいとされています。また、人工授精後に受精卵が細胞分裂する数日間も同様に暑熱の影響を受けやすいとされています。

3) 影響は夏以降も続く

- ・近年は残暑が長引く傾向にあります。夏場に採食量が落ちてエネルギー不足等になった牛は、長引く残暑の影響等により、体調がなかなか回復せずに生産性への悪影響が続きます。
- ・暑熱対策にしっかりと取り組まなければ、生産性への悪影響は、約半年（7月頃～11月頃）にも渡って続いてしまう可能性があります。

4) 暑熱対策について

< 畜舎環境の対策 >

対策	効果
①送風	1m/sの風速で体感温度は6℃低下
②送風機の清掃	埃などの除去で送風能力向上
③通路等の整理整頓	風通しを良くし、新鮮な空気を牛舎へ
④細霧散布	気化熱による温度低下で涼しさUP
⑤寒冷紗等の設置	直射日光を和らげ、温度上昇を抑える
⑥屋根対策	石灰塗布や散水等で屋根からの熱を抑える

< 飼養管理の対策 >

対策	効果
①飼料給与	涼しい時間帯の飼料給与や給与回数の増加により、採食量を確保
②ビタミン・ミネラルや重曹等の給与	よだれや排尿によるビタミン等の不足解消や飼料の消化吸收を促進
③飲水設備の掃除や点検	十分な飲水量を確保
④適切な飼養密度	牛同士の接触を減らし、放熱を促進

- ・別紙の「暑熱対策チェック表」により、皆様自身で対策状況をチェックしてみてください。
- ・暑熱対策は、一つでも多くの対策を組み合わせることで効果が高くなります。まずは、自農場で可能な対策に1つずつ取り組むことから始めてください。早めの対策で牛へのダメージを最小限に抑えましょう。



※牛だけでなく、生産者の皆様もこまめな給水や休憩など十分な熱中症対策をお願いします。

【問い合わせ先】 各農業振興センター、農業技術防除センター、畜産課

